

茨城 全研ニュース #3

認知症の人と家族への援助をすすめる
第35回全国研究集会 in 茨城

公益社団法人 認知症の人と家族の会 茨城県支部
事務局／〒300-1292 茨城県牛久市中央3丁目15-1
(牛久市保健センター隣)
TEL/FAX 029-828-8089
E-mail Alz2010ibaraki@yahoo.co.jp

今年の全国研究集会はつくば国際会議場で開かれます。



今年の全研が行われるつくば市は、元々は桜村を中心とする、松林や沼地の広がる原野のような土地でした。昭和中期に始まった研究学園都市計画により開発が進められ、現在に至っています。国や企業の研究機関が市内に数多く集中していますが、公園や遊歩道など憩いの場を多く確保し、なるべく自然を残すようにされています。写真は宇宙航空研究開発機構（JAXA）の桜です。年度替わりの時期には、多くの研究所、病院、学校の敷地内や幹線道路沿いでも、桜が満開になります。

今年の研究集会では、そんな桜に囲まれた筑波大学病院の精神科名誉教授で、現在、メモリークリニック御茶ノ水の院長もされている朝田隆先生に基調講演をして頂くことになりました。今や、知らない人はいないくらいTVでも人気の先生ですが、研究集会では「地域感覚の認知症ノウ」という演題で、もはや夫婦や家族だけでは対処しきれなくなった認知症問題に焦点を絞ってお話し頂きます。是非お楽しみに。

平均寿命はますます伸び、社会の高齢化と共に、認知症が他人事ではなくなってきた昨今、認知症との共存社会に突入しつつあるにも拘わらず、まだまだ市民の意識が低いと嘆く、茨城県作業療法士会の大津匡史（まさふみ）さん（写真）に、今回はお話を伺いました。



・認知症への理解を広めるには？

「カフェや講演会などで活動していても、

『認知症』というレッテルがマイナスイメージになっていると感じます。これをどう払拭するかが問題です。マイナスイメージを持っている人は、笑っている認知症の人を恐らく見たことがないでしょうね。当事者で旗を振ってくれる人が沢山いるといいのですが…。視覚障害者が白杖を突いているのを見て、周囲の人が自然と気配りをしてくれるようなレベルに、認知症に関しても早くなって欲しいです。」

・カミングアウトについて

「高次脳機能障害などは『見えない障害』とも言われますが、認知症も一緒に、軽度だと外からは分かりません。しかし、なるべく早く、信頼できるご近所の方には知っておいて貰った方がいいです。家で抱え込んでしまうのは良くありません。」

・認知症の人に対する作業療法士（OT）の役割について

「初期レベルから BPSD（この言い方も次第に消えつつありますが）の出ている方のケアには、やはり心のサポートが重要です。作業療法士は元々精神科領域から始まったわけで、ご本人の心を支えて生活や活動を変えていく点で重要な職域だと思います。」

・OT 学生の社会参加について

「精神的に問題を抱えている方々と多く接する事は大切ですので、集いへの参加など、部分的にでもカリキュラムに組み込めたらいいと考えています。」

“つなぐ” ～認知症の人とその家族が地域の人と共に生きる社会～

2019年10月27日(日)9:30～15:30

つくば国際会議場(〒305-0032 茨城県つくば市竹園2-20-3)

今年度のテーマを踏まえ、実践や体験を募集しています。

- ◆ 発表時間:口述発表 15分程度
- ◆ 応募方法:発表テーマとその内容(約1,000字程度)、住所、氏名、年齢、職業を明記して、メールまたは郵便でお寄せください。(締切:2019年6月20日)
- ◆ 応募先:E-mail:office@alzheimer.or.jp,
郵送:〒602-8143 京都市上京区猪熊通丸太町下る仲之町519番地
京都社会福祉会館内
「家族の会」本部事務局 全国研究集会事例発表係